



改修後



改修前



特



集

村 内ではじめてのゲストハウスが誕生しました。

令和6年12月1日、東通村地域おこし協力隊の桑原杏奈隊員が手掛ける『ゲストハウスはれのち』が入口地区でオープンを迎えました。

桑原隊員は、令和5年5月より、協力隊員として委嘱され、村内に眠る空き家の活用というミッションのもと『空き家コーディネーター』として活動してきました。

村内の空き家を調査し、活用できそうな物件を見て回り、家主に交渉を重ね、入口地区にある『長運(ちようん)』を経営していた、石田さん宅の空き家をゲストハウスにすることを決めました。

この空き家について桑原隊員は「とてもいい物件で、古き良き雰囲気を残しながら、改修を進めていきたい」と話し、令和6年5月に改修作業がスタートしました。

地域おこし協力隊に着任してからの約1年間、環境や人に慣れるため、沢山の方々と交流を行いながら、ゲストハウスに活用できそうな物件がないか、村内中を歩き回って、見つけ出しました。

想いは一つ。「地域の方、村内外の方、観光客の方々にとって、憩いの場となるような場づくりがしたい。東通村に辿り着くまでに、北海道や京都のゲストハウスに従事していた経験があり、自分で一から手掛けたいと思っていた時に東通村地域おこし協力隊の募集があり、自分の思いと合致したんです。」と話す桑原隊員。



その他にも、むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援助成事業など、様々な方法で資金繰りを行いました。その期間中は、小中学生対象のDIYイベントの開催やインターシップの受入など、地域活動は多岐にわたりました。

ゲストハウスはれのち